

平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	九州大学	整理番号	f005
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	臨床研究活性化のための大学院教育改革		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 基礎医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (基礎医学研究、臨床医学研究、研究倫理)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 医学系学府・機能制御医学専攻 [博士課程(一貫制)]		<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 金出 英夫
	(その他関連する研究科・専攻名) 医学系学府・生殖発達医学専攻 [博士課程(一貫制)] 医学系学府・病態医学専攻 [博士課程(一貫制)] 医学系学府・臓器機能医学専攻 [博士課程(一貫制)] 医学系学府・分子常態医学専攻 [博士課程(一貫制)] 医学系学府・環境社会医学専攻 [博士課程(一貫制)]		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>九州大学大学院医学系学府は、近年の大学院重点化や「学府・研究院制度」の導入などにより、「研究大学」としての役割は十分に果たしている。しかし、大学院が担うのは研究遂行だけではなく、次世代を担う研究者の養成という教育的役割も大きい。ところが、学部教育内容の急増、卒後臨床研修必修化などにより、学生や研修医は大学院進学に目を向ける余裕をなくしつつある。このままでは、人材育成という目的を果たせぬばかりか、いずれは研究遂行にも支障を来しかねない。</p> <p>現在、九州大学医学部では「生命科学科」の設置を計画し、基礎研究者養成基盤の構築を目指している。一方、平成17年9月5日の中教審答申によれば、医療系大学院には、基礎研究者養成と並行して、研究指向性があり臨床研究遂行能力を修得した医師の養成や、専門医資格取得とも相容れる教育システムが求められている。しかし、今の大学院ではそのような教育体制はとられていない。</p> <p>そこで本事業により、臨床研究専門教育システムの構築を核とする医療系大学院教育改革に着手したい。九州大学には世界的にも貴重な「久山町疫学研究」の歴史があり、他大学に先駆けて臨床研究教育の問題を解決する責務があると自負している。</p>			

5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)

平成16年度より中期計画に基づき大学院教育の改善に取り組み、①多様な人材の積極的受け入れ、②生命科学の最先端に関する教育、③厳格な成績評価などの中期目標は着実に達成されている。しかしながら、博士課程での指導は、研究室の業績を上げることに今も偏っており、学生の将来を考え、社会ニーズにあった人材を輩出するための教育課程には必ずしもなっていない。

従来の大学院教育は主に基礎研究を想定して行われてきたため、臨床研究の分野では、「久山町疫学研究」の伝統にも関わらず、一流の成果や人材を生み出すことは必ずしも容易ではなかった。その対策の一環として、21世紀COEプログラムに伴い、生活習慣病ゲノム疫学研究者の教育拠点形成が計画されている。ただ、そのような各論的教育以前に、まず**臨床研究全般にわたる基盤教育**が必須である。また、臨床研究を担う医師を多数養成する必要があるが、若手医師にとっては専門医資格の取得も必要なので、**医師が社会人のまま大学院を受講できるシステム**を作る必要がある。

基礎研究者の養成についても、これまでは配属先分野にほとんど任されてきたため、学生が**修得できる領域は限られていた**。また、**学習到達度を把握し評価する方法が必ずしも十分ではなかった**。さらに、今日求められている**科学者の不正行為への予防策**は、これまでは特に存在しなかった。

これら諸問題を解決するため、大学院教育の改革が必要である。

5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)

生活習慣病ゲノム疫学研究者のさらなる発展を含め、将来の臨床研究を担う優れた研究者を多数養成するため、臨床研究専門教育コースの設置を核とする医療系大学院教育改革に取り組む。要点は次の四つである。

1. 社会人医師も受講可能な臨床研究教育システムの構築

臨床研究にとっては、研究テーマ中心の個別指導より系統的なコース教育が適している。そこで、博士課程に「臨床研究専門教育システム」を新設し、適正な臨床研究を実施する能力を大学院の期間に修得させる。また、社会人医師に大学院で学ぶ機会を提供するため、本システムの授業は原則として夜間もしくは休日に設定する。

2. 基礎研究者養成システムの実質化

基礎研究者を育てるには、基本的には個別指導による才能の発掘が適している。ただし、大学院修了後速やかに自立できる研究者を効率よく輩出するため、複数関連分野の連携による教育体制を構築する。

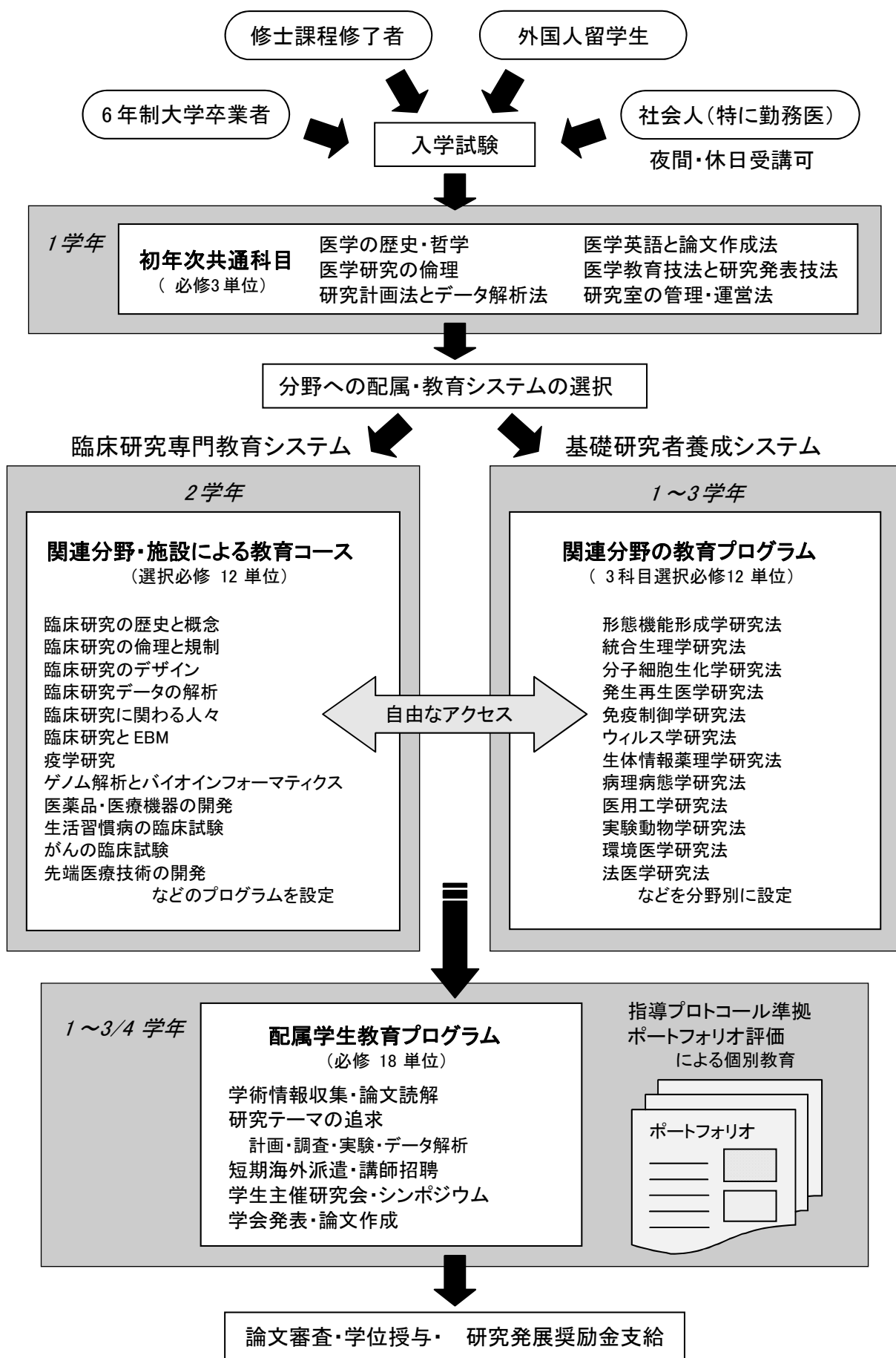
3. 研究倫理を中心とする共通必修科目の設定

研究者の職業倫理など、必ず身につけておくべき教育内容を必修科目として新設する。

4. ポートフォリオ作成による大学院教育評価

指導プロトコルを作成し、これに基づいて教育を計画的に進める。学生には、修得したことや経験したことを纏めた「ポートフォリオ」を作成させ、学習到達度の速やかな把握、様々な角度からの成績評価を可能にする。

6. 履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・現状の医学系大学院の問題点を的確に捉えて改善方策を具体化したプログラムとして高く評価できる。
- ・特に、リサーチマインドを持った臨床医育成に向けた臨床研究教育のシステム化、病院勤務の社会人大学院生に履修を可能とした点、ポートフォリオ作成による学習評価、基礎系研究者育成への明確な視点も評価できる。
- ・これまで抽象的であったPhysician Scientistのあるべき姿を示した点で、今後の展開が期待される。
- ・しかし、多忙な勤務医が効果的に学習し、臨床研究成果をまとめるための魅力ある支援システムを確立し、教育プログラムを実効性あるものとする必要がある。